下水道事業長期構想の策定に関する調査研究

研究第一部　主任研究員
和知　英治

1　研究目的

堺市の下水道事業は，昭和27年の事業認可以来50年以上が経過し，下水道普及率が約96%と面整備は完了期を迎えている。しかし，下水道未普及地域の存在，合流式下水道による雨天時の未処理放流，処理施設の高度処理化や雨水整備の遅れ，施設の老朽化等様々な課題があり，対策を講じていく必要がある。

また，近年，下水道の有する多様な機能を通して新たな役割が下水道に求められている。

本研究では，上記のような課題に向けての今後の堺市下水道事業の羅針盤ともなるべき長期構想の策定を支援することを目的として，堺市からの受託研究により平成17・18年度の２カ年で実施した。

2　研究内容

本研究では，堺市における下水道事業の現状と計画を整理し，今後の事業の進め方について検討するとともに，学識経験者等で構成する「堺市下水道事業長期構想策定懇話会」の意見をもとに，構想をまとめた。さらに，市民のニーズを反映した構想とすべく，水環境や下水道事業に関する市民アンケートを多数実施した。

3　研究成果

(1)　市民アンケートの結果

①水環境について

以前に比べて悪くなっていると感じ，「身近で，きれいで，安全な」水辺が欲しいとの意見が多数を占めた。

②下水道事業について

汚水整備・浸水対策に加え，資源の有効利用や地震対策についても強く要望していることがわかった。

③情報発信について

不足しており，今後は，計画段階から市民が何らかの形で参画すべきという意見が多数を占めた。

(2)　行動の理念の設定

下水道事業を進める基本的な考え方を示すため，堺市の歴史的背景を強く意識した行動の理念を設定した。

行動の理念

みずから治めるまちの再生　～自由と自治の伝統を活かした「魅力ある下水道」の実現～

(3)　基本方針の設定

行動の理念に基づく三つの事業方針を設定した。

事業方針

方針１　快適で安全な暮らしを支える下水道の実現
方針２　きれいで豊かで身近な水環境の創造
方針３　市民と行政の連携と役割分担による下水道事業の展開

(4)　下水道会合衆の設立

「方針３」を実現化するために「下水道会合衆」の設立を提唱した。「下水道会合衆」とは，市民と共にこれからの下水道事業を支える自立した活動母体であり，本基本構想の大きな特徴といえる。

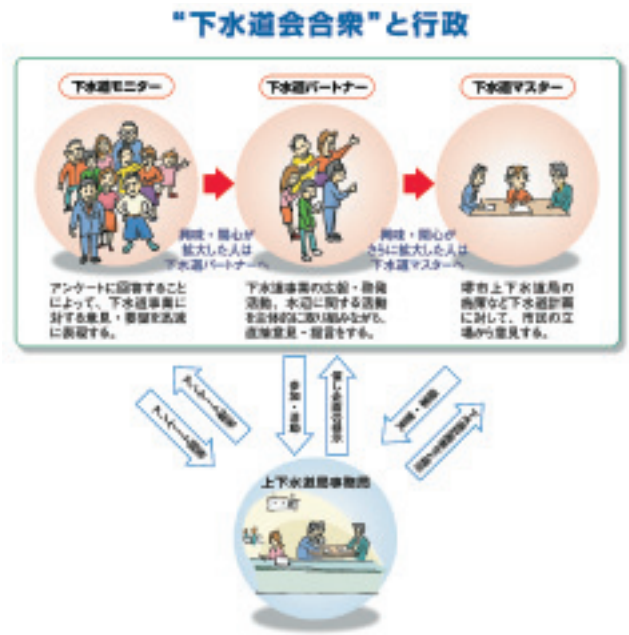

図１　下水道会合衆の概念図